



春の高倉地内

Q 高倉ふるさととご当地グルメ

A 新鮮安全の食材と人々を支援

川合 利枝 議員

- 質問一** 栽培されている麦はどのような加工、活用がされているか。
- 二** 農産物直売センターの利用客数と収益について。
- 三** 農業交流センターの利活用の実態について。
- 四** ご当地グルメ、B級グルメについて。
- 五** 恵まれた景観プラス食の提供でさらに魅力あるふるさとに。
- 答弁一（市長）** 学童保育の子どもたちによるうどん打ち、ここほっとや市内活動団体などでの利用ビールの醸造を行っている。
- ご当地グルメの商品化、食農教育への活用等を検討している。
- 二** 平成20年度の利用客数は25万1962人、売上高は3億3401万円である。
- 三** 利用対象を農業関係者として

いたことから、これまでの利用頻度は高くない。今後は、広く一般市民の皆さんにも利用していただくよう、宣伝に努めていく。

四 ご当地グルメは、地域に人を呼び寄せ交流を産むと同時に、地産地消の促進にもつながる。

五 新鮮安全な食材があり、地域づくり熱心な人々がいる。魅力あるふるさとづくりへ積極的な支援を行う。

◎その他の質問 「国民読書年」によせて

Q

鶴ヶ島市の基礎学力教育について

A

9年間を見通した指導計画

高橋 剣一 議員

- 質問一** ゆとり教育が生徒の学力低下を招いたとの指摘について。
- 二** 児童生徒に基礎学力の定着を図る取り組みは。
- 三** 学習塾と小・中学校との関係について留意している点は。
- 四** 学力格差についてどのように判断しているか。

五 基礎学力定着への今後の取り組みについて。

答弁一（教育委員長） ゆとり教育の学力低下への影響は考えられるが、ほかに子どもを取り巻く環境や学習意欲の減退等、多様なものが考えられ、ゆとり教育だけに原因を求めるのは難しい。



- 二** 学級運営の改善のための非常勤講師の制度等を積極的に活用し、子どもが集中して学習に取り組める体制を作る。
- 三** 中学校では、高校の特色ある教育活動の情報を提供し、生徒が自分の能力、適性に合った高校等の進路についてアドバイスをを行う。
- 四** 児童生徒の学力を向上させるには学校での取り組みも重要だが、規則正しい食生活をはじめとする生活習慣の確立など、家庭の協力を得て総合的な対策が必要。
- 五** 二期制の良さを生かした教育課程の編成や小・中学校が連携した9年間を見通した指導計画の作成に取り組む。